

科目名	看護学概論	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門分野 I		講義		1	1年 1・2学期	
担当者	長野恵美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間
担当者	眞鍋誠子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>看護の概要については既習の知識があるため、看護者としてより人権を擁護する観点に立った代弁者的な役割が果たせるよう、また専門職としての倫理観を持つなど、看護の専門家に求められている倫理的根拠、法的根拠、基礎的理論、看護管理などを学習し、看護の本質について理解する。</p> <p>さらに、現在の看護の活動領域の広がりに対応し、看護の国際協力、国外での看護や在日外国人への看護の実際を理解する。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の定義と概念、対象の理解・健康のとらえ方と健康状態について、その内容を理解、自己の考えを確立できる。</li> <li>2. 看護における倫理的問題について、自分の考えをまとめることができる。</li> <li>3. 我が国の看護制度や看護政策について、現状と特徴について理解できる。</li> <li>4. 病院と地域における看護サービスシステムについて説明できる。</li> <li>5. 国際看護の基本理念及び災害看護における看護の役割について理解できる。</li> </ol>							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>&lt;長野恵美&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護とは 看護の本質</li> <li>2. 看護の役割と機能、連携</li> <li>3. 看護の対象の理解</li> <li>4. 健康のとらえ方、国民の健康状態</li> <li>5. } 看護における倫理</li> <li>6. }</li> <li>7. 死の看取りの援助</li> <li>8. 筆記試験・まとめ</li> </ol> <p>&lt;眞鍋誠子&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の提供者</li> <li>2. 看護職者の就業状況</li> <li>3. 看護の提供のしくみ</li> <li>4. 看護サービスの管理</li> <li>5. 看護制度</li> <li>6. 国際看護</li> <li>7. 災害看護・トリアージ</li> <li>8. 筆記試験・まとめ</li> </ol>							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学① 看護学概論 医学書院 2021  系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2021  新体系看護学全書 看護の統合と実践1 看護実践マネジメント 医療安全  メヂカルフレンド社 2021</p>							
<p>参考書</p> <p>F. ナイチンゲール 看護覚え書き 決定版 医学書院  V. ヘンダーソン 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会  手島 恵 看護者の基本的責務 日本看護協会</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	基礎看護方法論 I (共通基本技術)	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義・演習		1	1年 1学期	
区分	専門分野 I						
担当者	山下逸美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間
担当者	長野恵美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>看護実践能力の基礎となる基本的な看護技術のうち、人間関係を形成するためのコミュニケーション技術、および看護者としての必要な判断力や、看護技術の根拠、看護を計画的に展開する際に最も基本となるヘルスアセスメントの技術を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護実践における対象者とのコミュニケーションの進展と関係形成</li> <li>2. 対象者の尊厳と権利を擁護する方法、およびアサーティブコミュニケーションを学ぶ。</li> <li>3. 対象の健康状態を身体的・精神的・社会的な視点から総合的にアセスメントできるための知識・技術・態度を学ぶ。</li> </ol> <p>対象者の意思決定や治療への主体的な参画を支援する学習支援の技術を学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーション技術について、グループワークをもとにその技術を身につけることができる。</li> <li>2. 対象者との関係形成のあり方、アサーティブコミュニケーションの方法について説明できる。</li> <li>3. 対象者の意思決定及び主体的参画を促す学習支援の技術について理解できる。</li> <li>4. ヘルスアセスメントの概略について理解し、系統別フィジカルアセスメントの技法とその根拠について理解できる。</li> </ol>							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>&lt;山下逸美&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎看護技術 I 看護技術を学ぶにあたって</li> <li>2. } 第1章 コミュニケーションとグループワーク</li> <li>3. } 第6章 学習支援</li> <li>基礎看護技術 II</li> <li>序章</li> <li>4. } コミュニケーション障害への対応</li> <li>5. } アサーティブコミュニケーション</li> <li>6. } 学習支援</li> <li>7. }</li> <li>8. 筆記試験・まとめ</li> </ol> <p>&lt;長野恵美&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎看護技術 I 第2章 ヘルスアセスメント ヘルスアセスメントとは 健康歴とセルフケア能力のアセスメント</li> <li>2. }</li> <li>3. }</li> <li>4. }</li> <li>5. }</li> <li>6. }</li> <li>7. }</li> <li>8. }</li> <li>8. 筆記試験・まとめ</li> </ol>							

教科書

系統看護学講座	専門分野 I	基礎看護学②	基礎看護技術 I	医学書院	2021
系統看護学講座	専門分野 I	基礎看護学③	基礎看護技術 II	医学書院	2021

参考書

成績評価方法

出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。

科目名	基礎看護方法論Ⅱ (共通基本技術)	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			演習		1	1年 1学期	
区分	専門分野Ⅰ						
担当者	山下逸美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間
担当者	阿部喬子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>対象の健康障害を理解し、根拠に基づいて、支障をきたす対象者の日常生活の援助ができるための知識・技術・態度を学ぶ。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <p>1. 対象者の安全・安楽をまもり、個別性を配慮し自立を促す看護援助ができる。 2. 対象者の状態をふまえ、優先順位を判断し看護援助ができる。</p>							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>&lt;山下逸美&gt;</p> <p>1. } 第1章 環境調整技術 2. } 3. } 第4章 活動・休息援助技術 4. } 5. } 第5章 苦痛の緩和・安楽確保の技術 6. } 7. 筆記試験、まとめ</p> <p>&lt;阿部喬子&gt;</p> <p>1. } 2. } 第2章 食事援助技術 3. } 4. } 5. } 第3章 排泄援助技術 6. } 7. } 第6章 清潔・衣生活援助技術 8. } 9. 筆記試験、まとめ</p>							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2021</p>							
<p>参考書</p> <p>授業の中で紹介</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	基礎看護方法論Ⅲ (診療の補助技術)	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期													
			講義		1	1年 2・3学期													
区分	専門分野Ⅰ																		
担当者	長野恵美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間												
担当者	山下逸美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15 / 30時間												
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>生体侵襲の大きい検査・治療・処置に伴う看護の技術を学び、患者の身体の状態を把握するために看護師が行う基本的看護技術について学ぶ。  看護者として必要な看護技術の根拠とアセスメント、判断力について学習する。</p>																			
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者に行われる検査・治療・処置をイメージでき、看護技術の各項目について手技のポイントや注意点、根拠を理解できる。</li> <li>2. 患者の身体の状態を把握するためのアセスメント技術について理解できる。</li> </ol>																			
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>&lt;長野恵美&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 呼吸・循環を整える技術 酸素吸入療法、排痰ケア</li> <li>2. 呼吸・循環を整える技術 胸腔ドレナージ、吸入</li> <li>3. 救命救急処置技術 急変時の対応、止血法、胃洗浄</li> <li>4. 救命救急処置技術 心肺蘇生法、人工呼吸療法</li> <li>5. 症状・生体機能管理技術 検体検査</li> <li>6. 症状・生体機能管理技術 生体情報のモニタリング</li> <li>7. 体験とまとめ</li> <li>8. 筆記試験</li> </ol> <p>&lt;山下逸美&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感染防止の技術 スタンダードプリコーション、経路</li> <li>2. 創傷管理技術 創傷処置、褥瘡予防</li> <li>3. 洗浄・消毒・滅菌、無菌操作</li> <li>4. 感染症廃棄物の取り扱い、血流感染対策(カテーテルの取り扱い)</li> <li>5. 診察・検査・処置の介助技術</li> <li>6. 与薬の技術 経口・吸入・点眼・点鼻・経皮・直腸内</li> <li>7. 与薬の技術 注射・輸血の管理</li> <li>8. 筆記試験・まとめ</li> </ol>																			
<p>教科書</p> <table border="0"> <tr> <td>系統看護学講座</td> <td>専門分野Ⅰ</td> <td>基礎看護学②</td> <td>基礎看護技術Ⅰ</td> <td>医学書院</td> <td>2021</td> </tr> <tr> <td>系統看護学講座</td> <td>専門分野Ⅰ</td> <td>基礎看護学③</td> <td>基礎看護技術Ⅱ</td> <td>医学書院</td> <td>2021</td> </tr> </table>								系統看護学講座	専門分野Ⅰ	基礎看護学②	基礎看護技術Ⅰ	医学書院	2021	系統看護学講座	専門分野Ⅰ	基礎看護学③	基礎看護技術Ⅱ	医学書院	2021
系統看護学講座	専門分野Ⅰ	基礎看護学②	基礎看護技術Ⅰ	医学書院	2021														
系統看護学講座	専門分野Ⅰ	基礎看護学③	基礎看護技術Ⅱ	医学書院	2021														
<p>参考書</p> <p>適時資料配布</p>																			
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>																			

科目名	基礎看護方法論Ⅳ	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
			講義・演習		1	1年 2・3学期	
区分	専門分野Ⅰ						
担当者	阿部喬子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	30時間
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>看護過程を展開するために必要な基本的な知識を学習する。 事例を用いて展開することで、対象者に応じた看護を実践するために必要な問題解決力・思考力を深めることができる。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程を展開するために必要な基本的な知識を学習する。</li> <li>2. 事例を用いて展開することで、対象者に応じた看護を実践するために必要な問題解決力・思考力を深めることができる。</li> </ol>							
<p>授業概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程とは（定義と構成要素）、看護過程とPOS（看護過程）</li> <li>2. いろいろな理論家による枠組み（ヘンダーソン、オレム、ゴードン、NANDA）</li> <li>3. ヘンダーソンの考えによる看護の展開：理論、看護の構成要素</li> <li>4. ヘンダーソンの枠組みを使った看護過程紙面演習 事例展開－データベースへの情報整理(全体像)</li> <li>5. 事例展開－アセスメント：呼吸（情報の整理）</li> <li>6. } 事例展開－アセスメント：呼吸（情報の分析・解釈、看護診断）</li> <li>7. }</li> <li>8. 筆記試験</li> <li>9. } 事例展開－アセスメント：姿勢・移動（情報の分析・解釈、看護診断）</li> <li>10. }</li> <li>11. } 事例展開－看護計画：呼吸・姿勢・移動</li> <li>12. }</li> <li>13. 事例展開－実施記録・評価</li> <li>14. 実習記録用紙の記入方法のまとめ</li> <li>15. 看護過程紙面演習のまとめ</li> </ol>							
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 2021</p>							
<p>参考書</p> <p>リンダ J. カルペニート＝モイェ 看護診断ハンドブック 第11版 医学書院 授業の中で紹介</p>							
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、課題提出状況、筆記試験などで評価する。</p>							

科目名	臨床看護技術	必修・選択		授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門分野 I			講義・演習		1	1年 通年	
担当者	長野恵美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	15 / 45時間	
担当者	阿部喬子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	12 / 45時間	
担当者	山下逸美	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	18 / 45時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>生活援助技術を取り上げ、思考過程と根拠に基づいた看護実践が実施できるように演習を行い、看護実践力の育成を図る</p>								
<p>学生の到達目標</p> <p>1. 紙面事例の対象に必要な援助をアセスメント、立案し、科学的根拠に基づいて安全・安楽に配慮して援助を実施できる。</p>								
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>1. } 2. } 入院してくる患者を想定したベッドメイキング(担当 山下逸美) 3. } 4. } 5. } 6. } 持続点滴療法中の患者の和式寝衣交換 (担当 阿部喬子) 7. } 8. } 9. } 左片麻痺のある患者のバイタルサイン測定 (担当 長野恵美) 10. } 11. } 12. } 13. } 左上下肢に麻痺のある患者の車いす移乗・移動 (担当 山下逸美) 14. } 15. } 16. } 17. } 健康診査に訪れた患者のフィジカルアセスメント (担当 長野恵美) 18. } 19. } 20. } 就床患者の室内療養環境を整える (担当 山下逸美) 21. } 22. } 23. } 左上下肢に麻痺のある患者の足浴 (担当 阿部喬子)</p> <p>上記7項目についてそれぞれ実技チェックを実施</p>								
<p>教科書</p> <p>系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I 医学書院 2021  系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術 II 医学書院 2021</p>								
<p>参考書</p> <p>適宜紹介</p>								
<p>成績評価方法</p> <p>出席率、授業態度、演習記録、技術チェックなどで評価する。</p>								

科目名	基礎看護学実習	必修・選択	授業形態		単位数	開講時期	
区分	専門分野 I		実習		2	1年 3学期	
担当者	阿部喬子	資格	看護教員	実務経験	有・無	時間	90時間
担当者	眞木智美	資格	看護師	実務経験	有・無	時間	
<p>授業の目的・ねらい</p> <p>すでに学んだ基礎的な知識・技術・態度を活用し、実際に看護場面で看護過程を展開することにより、対象に応じた看護が実践できる基礎的能力を養う。</p>							
<p>学生の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者の特徴を理解できる</li> <li>2. 対象に応じたコミュニケーションが図れる</li> <li>3. 対象に応じた生活援助技術を実践できる</li> <li>4. 対象を総合的に理解し、看護過程のプロセスを用いて計画に沿った看護を実践できる</li> <li>5. 看護学生としての責任と義務を果たすことができる</li> <li>6. 保健・医療・福祉チームの一員としての看護の役割を理解できる</li> <li>7. 自己の看護観を深めることができる</li> </ol>							
<p>授業概要（授業計画）</p> <p>実習場所 愛媛県立今治病院（5東・4西・4東・3西・3東 の各病棟）</p> <p>実習期間 1年次 3学期 12日間</p> <p>実習方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習前、対象に関する基礎情報を確認し、自己学習する。</li> <li>2. 実習施設でオリエンテーションを受け、看護学実習における学習環境を理解する。</li> <li>3. 対象を1名受け持ち、看護過程の展開を学ぶ。</li> </ol> <p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 受け持ち4日目を目安に、優先順位の高い予測した看護上の問題について看護診断を行う。以後、長期目標と短期目標を設定し、看護計画を立案、対象の反応を観察しながら対象に日常生活援助を実施する。</li> <li>2. 看護師の行う日常生活援助技術を見学及び実施することで、対象に応じた看護の実際を学ぶ。</li> <li>3. 診察時の援助を見学することにより、診察時の看護の実際について学ぶ。</li> <li>4. 実習最終日に、実習目標の到達度を評価し、実習のまとめを行う。</li> </ol>							
教科書							
参考書							
<p>成績評価方法</p> <p>出席日数、実習内容、実習記録などにより総合的に判断、評価する。</p>							